

## 今回の「医薬品適正使用・育薬トレーニング」の問題

## 服薬ケアのリスクマネジメント

問題提出：平成 28 年 5 月 2 回目

問題解答：平成 28 年 6 月 1 回目

<処方1> 16歳の男性。神経クリニック。昨年の12月15日。

---

ロゼレム錠 8 mg	1 錠	1 日 1 回	就寝時	30 日分
------------	-----	---------	-----	-------

---

<処方2> 今年の1月21日。

---

ルボックス錠 25 mg	1 錠	1 日 1 回	朝食後	4 日分
ホリゾン錠 5 mg	1 錠	発作時発作予防時 1 日 2 回まで		4 回分

---

<処方3> 今年の1月23日

---

ロゼレム錠 8 mg	1 錠	1 日 1 回	就寝時	30 日分
------------	-----	---------	-----	-------

---

\*服薬開始時期について、医師から患者へ指導があったかどうかは不明である。

## 【何が起こったか？】

1/21 にルボックス錠<フルボキサミン>を交付する際に、併用薬に関する聴取が不十分であったため、残薬となっていた併用禁忌のロゼレム錠<ラメルテオン>を継続して服用していることに気付かず、そのまま交付してしまった。

## 【どのような経緯で起こったか？】

患者は1/21 に処方2を持って来局した。最近、眩暈やくらくらすることがあったり、調子が悪くて転倒したりすることがあった（原因については不明である）ので受診したとのこと。1/23 にまた受診するように言われており、ホリゾン錠は以前に別の病院で出されたことがあるとのこと。

1/21 の時点では、前回来局時のロゼレム錠（処方1）の処方日（昨年の12/15）から1カ月以上経過していたので、ロゼレムとルボックスの相互作用（併用禁忌、【特記事項】参照）は問題ないと薬剤師は判断し、何ら対応をとらなかった。

1/23 にロゼレム錠の30日分処方（処方3）をFAXにて受け付けた。初期鑑査にて前回の処方（1/21、処方2）と併用禁忌であることに気付き、患者来局時に確認する予定で申し送りを行っていた。当日の閉店後に患者家族より後日取りに行くと電話連絡があり、その際に、これまでのロゼレムの服用状況を確認したところ、12/15に処方されたロゼレム錠の自宅残薬を継続服用していたことが発覚した。

ロゼレム錠（12/15の処方1の自宅残薬）とルボックス錠（1/21の処方2の分）を3日間同時に服用していたとのことであった。幸いにも、ロゼレム錠による副作用や体調変化等は見られなかった。特に、患者や家族からのクレームもなかった。

患者（家族）に今回の状況について説明し、ロゼレム錠とルボックス錠の飲み合わせの問題をわかりやすく事前に説明しなかったことを謝罪した。今後は、ロゼレム錠とルボックス錠の自宅残薬については医師や薬剤師の許可なく服用しないように指導した。

直ちに医師に連絡し、患者の服薬状況を説明した。更に、1/23 のロゼレム錠の処方については、ルボックス錠の服薬が終了する 1/24 の翌日 1/25 の就寝前から服用することとなった。

【指導薬剤師から一言】 難易度 ★☆☆☆☆

併用禁忌となる薬剤が自宅残薬となっていることの危険性を考える。

育薬也三才一2016  
(お)パル)